

NEWS RELEASE (2022年3月7日) 取材依頼

【総合研究博物館・農林水産学研究科】1867年にアフリカで見つかり、その後155年間キツネフエフキと誤認されていた種が有効種であることが判明、日本からも発見されタチガミフエフキと命名

報道機関 各位

平素より本学の報道に関しては大変お世話になっております。

このたび、農林水産学研究科の大学院生渋谷駿太氏を筆頭とする総合研究博物館の研究チームが、フエフキダイ科フエフキダイ属の一種 *Lethrinus longirostris* (レスリナス・ロンギロストリス) を155年ぶりに有効な種であることを確認し、日本からも初めて記録しました。本種の大型個体が国内における主要な分布域である奄美大島において、信仰の対象とされている巨大な岩、「立神」を連想させることに因み、新標準和名タチガミフエフキを提唱しました。本研究の成果は査読付オンライン誌 *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan* (イクチ) に2022年2月21日付けで掲載されました。つきましては、次のとおりお知らせいたしますので、是非とも取材・報道いただきますようよろしくお願いいたします。

【概要】

Lethrinus longirostris は1867年にタンザニアで採集された標本に基づき、新種として記載されました。しかし、その後150年以上にわたって本種はキツネフエフキ *Lethrinus olivaceus* (レスリナス・オリバセウス) と同種であると考えられてきました。*Lethrinus olivaceus* は *Lethrinus longirostris* より早い1830年に記載されていたため、記載年が早い *Lethrinus olivaceus* が有効となり、*Lethrinus longirostris* は無効な学名として扱われてきました。

本研究において、インド・太平洋広域から得られたタイプ標本を含む多くの標本を形態学的に調査し、遺伝子の解析や過去の文献調査をしたところ、頭部の色彩[タチガミフエフキでは赤色帯(斑)をもつが、キツネフエフキでは黄色みを帯びた橙色帯をもち赤色斑を欠く]と下枝鰓耙数(タチガミフエフキでは少なく、キツネフエフキでは多い)などから、*L. longirostris* と *L. olivaceus* が別種であることを確認しました。

さらに、国内外における *L. olivaceus* に関する記録(標本、遺伝データ、文献に基づく)を調査することによって、タチガミフエフキ *L. longirostris* とキツネフエフキ *L. olivaceus* はインド・太平洋の広域に分布することが明らかとなりました。なお、両種とも全長1メートルに達する大型種です。

本研究で使用したフエフキダイ属魚類114標本は総合研究博物館に学術標本として所蔵されています。

【掲載論文】

フエフキダイ科 *Lethrinus olivaceus* Valenciennes, 1830 キツネフエフキの新参異名とされていた *Lethrinus longirostris* Playfair, 1867 タチガミフエフキ(新称)の有効性と再記載

【著者】

渋谷駿太・前川隆則・桜井 雄・本村浩之

【掲載誌】

Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 17: 50-66

【DOI】

10.34583/ichthy.17.0_50

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ichthy/17/0/17_50/_article/-char/ja

【関連ページ】

総合研究博物館 本村浩之教授 ホームページ

<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/motomura.html>

写真の説明文



タチガミエフキ（奄美大島産：総合研究博物館所蔵）



キツネエフキ（奄美大島産：総合研究博物館所蔵）

【問い合わせ先】

鹿児島大学総合研究博物館 館長・教授

本村 浩之（モトムラ ヒロユキ）

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

TEL：099-285-8111

E-mail：motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

※ 取材される際は、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底をお願いいたします。